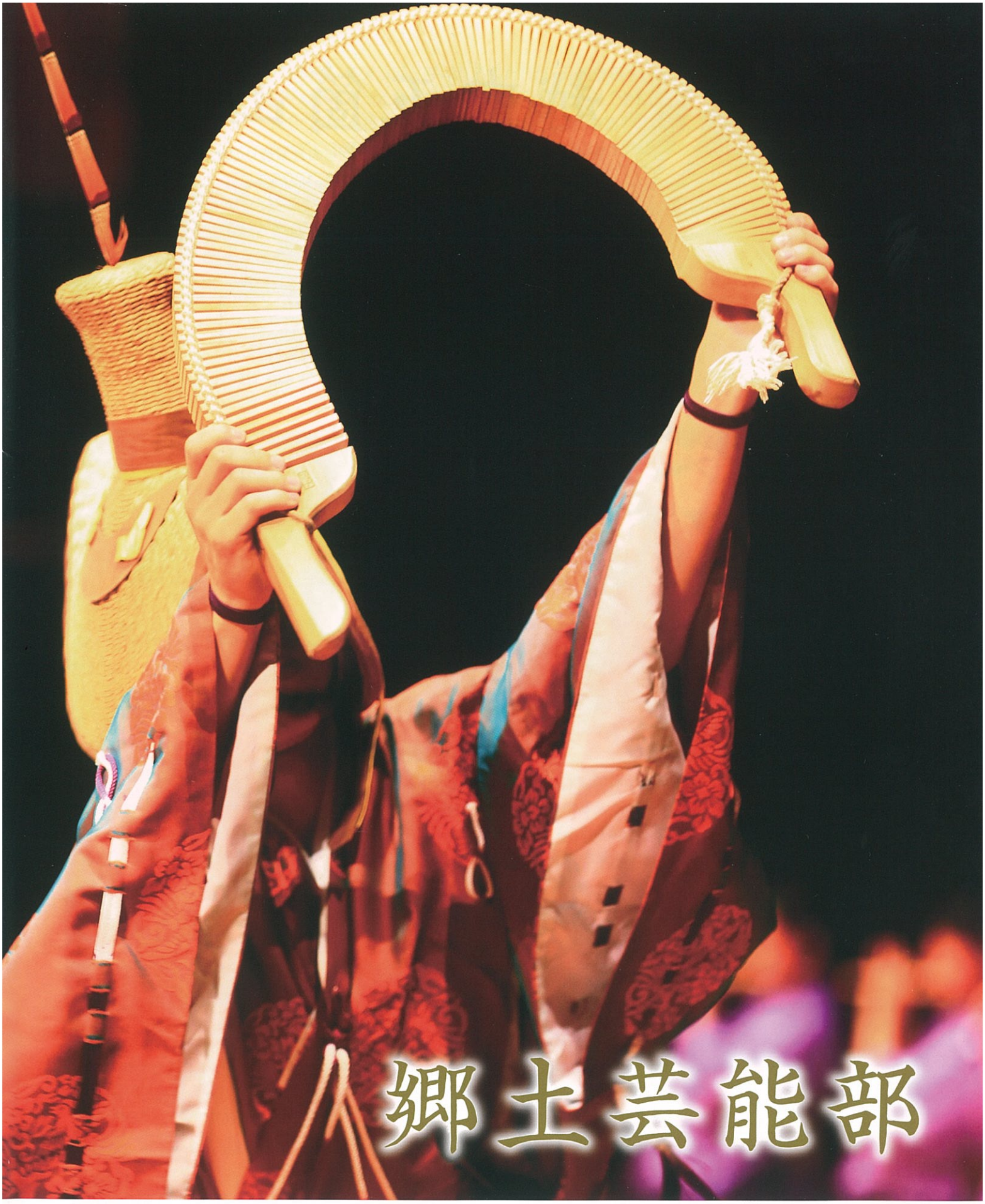

富山県立南砺平高等学校
〒939-1912　富山県南砺市大島1203
Tel(0763)66-2146(代)　Fax(0763)66-2112

越中五箇山民謡

南砺市五箇山は、深い山あいに昔ながらの合掌造りの集落が残り、たくさんの民話や民謡が伝えられているところです。1995年にはユネスコの世界遺産にも登録されました。ここには約800年前に都を落ちのびた平家の人々が住んだといわれます。雪深い山里で、それらの人々が心の慰めに歌い踊り始めたと伝わる「麦屋節」や、日本最古の民謡といわれている田楽ゆかりの田祭り踊り「こきりこ」などは全国的にも有名です。また、日々の暮らしの中で育まれた「五箇山追分節」や「といちんさ節」、悲恋物語を題材にした「お小夜節」など多くの民謡が歌い継がれています。ここに、その民謡の一端を紹介しますが、他にも草島節、まいまい、嫁入りいたこ、古代神、神楽舞、小代神、長麦屋、文句入り麦屋節など数多く存在し、五箇山は「民謡の宝庫」と呼ばれています。

麦屋節

笠踊り（男）

手踊り（女）

800年の昔、京都に栄華を極めた平家は、戦に敗れ、遠く人里離れた五箇山にのがれて来ました。その落人たちが在りし日の栄華を偲び、麦屋節を歌い出したと言われています。下梨地域では、毎年9月23・24日に麦屋まつりが開催されます。

笠踊り（女）

早麦屋

若い娘たちの農作業の様子を、四つ竹を打ち鳴らしながら軽快に踊ります。高所の桑摘みの仕草、麦を刈る仕草、刈り取った麦を投げる仕草などが随所に見られます。

こきりこ

平安時代、田楽法師と呼ばれる人たちが、五穀豊穣を祈り農民の労をねぎらうため、田植えや稲刈りの時に行った踊りです。男性が手にしている「ささら」は、108枚のこけらを編んだもので、108の煩悩を払拭するという意味があります。音楽の教科書などでも紹介され、全国的にも親しまれている民謡です。上梨地域では毎年、9月25・26日に「こきりこ祭り」が開催されています。

ささら踊り

しで踊り

といちんさ節

春を告げる小鳥の歯切れの良い鳴き声や軽やかな動きにみられるように娘が甲斐甲斐しく働いてほしいという母の願いが込められています。

四つ竹節

四つ竹を手で鳴らしながら唄うため、この名前がつきました。踊りの中には山里の暮らしが豊かになるようにと神様に祈るような所作も見られます。

お小夜節

加賀の流刑地から五箇山へ流された悲運な遊女お小夜。彼女は郷愁の思いを胸に抱えながらも、村の若い衆に唄や踊り、三味線、太鼓などを教え、みんなに愛されました。彼女の悲哀を偲び歌い継がれた踊りがこのお小夜節です。

五箇山追分節

その昔、五箇山の人々は、唐木峠、朴峠を越えて遠く離れた城端まで五箇山の物産（塩硝や生糸）を運び、帰りには日用品や米を牛の背中に負わせて往復していました。その道中、牛の歩くテンポと牛につけた鈴が鳴る音に合わせて唄ったのが、この「五箇山追分節」でした。

プロフィール

南砺平高校は、全校生徒80名程の小さな学校です。世界遺産のある地元五箇山地域に伝わる民謡の保存と伝承を目的に、郷土芸能部が活動を始めたのは、平成元年でした。当初はテープにあわせて踊る発表をしていましたが、平成7年からは、地方、踊りとも生徒が担当するようになり、現在のスタイルが確立されました。郷土芸能部には、全校生徒の約半数が所属しており、地元保存会（越中五箇山麦屋節保存会、越中五箇山こきりこ唄保存会、越中五箇山民謡保存会）の指導のもと、唄や楽器、踊りの稽古に励み、地域の祭りや福祉施設等での公演を行っています。全国高等学校総合文化祭には、平成6年から参加しており平成18年、26年に最優秀賞·文部科学大臣賞を受賞する等、入賞回数は全国一となっています。

こきりこ

〽（はれのサンサもデデレコデン）
筑子（こきりこ）の竹は七寸五分じゃ
長いは袖のカナカイじゃ
（窓のサンサもデデレコデン
はれのサンサもデデレコデン）

〽踊りたか踊れ泣く子をいくせ
ササラは窓の許（もと）にある

〽向いの山を担（かつ）ことすれば
荷縄が切れてかづかれぬ

〽向いの山に啼くひよどりは
啼いては下がり啼いては上がり
朝草刈りの目をばさます
朝草刈りの目をさます

〽月見て歌う放下（ほうか）のコキリコ
竹の夜声の澄みわたる

〽よろずのササイ放下（ほうか）すれば
月は照るなり霊祭（たままつり）

麦屋節

〽麦や菜種は　二年で刈るに
麻が刈らりょうが　半土用に

〽浪の屋島を　遠くのがれて来て
薪こるてふ　深山辺に

〽烏帽子狩衣　脱ぎうちすてて
今は越路の　杣刀

〽心淋しや　落ち行くみちは
川の鳴瀬と　鹿の声

〽川の鳴瀬に　布機たてて
波に織らせて　岩に着しょう

〽鮎は瀬につく鳥は　木に止まる
人は情の　下に住む